

Digest of Science of Labour

労働の科学

7
July

2025

Vol. 80, No. 7



レオナルドの多面体(II)／本城義雄

特集

「承認」をキーワードに今という時代を語る

特別インタビュー
暉峻淑子

連載

軽労働化で農業の再生⑩

宇土 博

タイプライターの歴史とタイピスト⑱

三宅章介

銀行と労働⑨

坂本恒夫

巻頭言

労研で学んだ
「ヒューマンエラー」の視点
西村春輝

凡夫の安全衛生論議⑭

福成雄三

労研アーカイブを読む⑬

椎名和仁

短期金融市場を知れば、金利と金融政策がわかる！



マネー・マーケット入門

日本銀行の金融政策と短期金融市場

服部孝洋 [著] ●東京大学公共政策大学院 特任准教授

国債を軸に、複雑な「短期金融市場＝マネー・マーケット」を読み解く。債権と金利の基礎から、豊富な具体例と明快な記述でナビゲート！

●3,080円(税込)

経済史で学ぶ 中林真幸 [著] 社会・経済のしくみ

これから人文・社会科学を学ぶ人へ

社会・経済現象のしくみを経済史をベースにやさしく解説。学び直しにもおすすめ！ ●2,420円(税込)



平和を求め る自由

立川反戦ビラ入れ事件の「良心の囚人」

ローレンス・レペタ [著] ●1,980円(税込)
市川正人・平野哲郎・坂田隆介 [訳]

立川反戦ビラ事件を戦争と言論という観点から照射する。



生成AIに できること、できないこと

「フランケンシュタインの怪物」を飼いなす

藤本浩司+柴原一友 [著] テンソル・コンサルティング株式会社 [監修]
生成AIのしくみを、専門知識にもとづき、やさしくひも解く。本質を正しく理解することで、新時代を生き抜くヒントが見えてくる。 ●2,530円(税込)

ここから
はじめる

包括的

●2,750円(税込)

セクシュアリティ教育

性の価値観・態度を見直す対話型アプローチ

東 優子・野坂祐子・吉田博美 [著]

境界線や性的同意ってなんだらう？ 性教育って、いつから、どこからはじめればいいのか？ 安全・安心な関係性づくりに向けた対話のすすめ。



こころの科学 HUMAN MIND 246号 2026.3 Mar

特別
企画

アサーション ●1,496円(税込)

協働と連携に活かすコミュニケーションの力

三田村 仰 [編] (立命館大学総合心理学部 教授)

自分も相手も尊重した自己表現はいかに支援現場で活かせるか。効果的なコミュニケーションについて考える。



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 TEL: 03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp/>

大原社会問題研究所雑誌

805号

2025年11月号

定価1,100円(本体1,000円+税10%) 年間購読13,200円(税込)

【特集】「全世代型社会保障」政策における「少子化対策」の批判的検討

特集にあたって

北 明美

異次元の少子化対策のジェンダー、市場

——子ども誰でも通園制度と男性の育児休業促進をめぐって

萩原久美子

社会保障財源としての消費税と保育の社会保険化の批判的考察

伊藤周平

「子ども・子育て支援金」が子育て支援策と社会保障にもたらす変質と矛盾のゆくえ

——子ども未来戦略・加速化プランの異様な費用負担構造

北 明美

■書評と紹介

Pierre Vernus, Manuela Martini and Tomoko Hashino (eds.), *A Global History of Silk: Trade and Production from the 16th to the Mid-20th Century*

阿部武司

永瀬伸子著『日本の女性のキャリア形成と家族』

鈴木恭子

社会・労働関係文獻月録/月例研究会 遠藤公嗣/所報 2025年7月

発行/法政大学大原社会問題研究所

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 Tel 042-783-2305 <https://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/>

労研で学んだ「ヒューマンエラー」の視点

西村 春輝

大原記念労働科学研究所（以下、労研）に入所したばかりの頃のことである。安全の研究グループに配属された私は「せっかくなら実際に起きた事故から学ぼう」と考え、海外で発生した医療事故のニュースを読んだ。MRI室内に酸素ボンベが持ち込まれ、強力な磁力によって患者が挟まれてしまったという痛ましい事例である。その記事を深く考えることもなく、上司に「ヒューマンエラーって感じですね」とチャット上で共有した。返ってきた言葉は、「最初からヒューマンエラーと考えるのではなく、まず組織的な要因から考えなさい」という趣旨のものであった。その後、グループ内の議論や研修の場で、「そもそもエラーとは何か」「なぜそれをヒューマンエラーと呼ぶのか」という問いが、繰り返し投げかけられた。入所前まで実験室実験を主なるフィールドとしてきた私にとって、これらの問いは正直なところ、すぐには腑に落ちるものではなかった。

心理学の実験では、実験者が設定した課題を達成できなければ「エラー」と判断される。たとえば、単語の記憶テストを行ったとする。テストの結果、5問中4問正解であれば、思い出せなかった残りの1問はエラーである。しかし、現実の職場や社会におけるエラーは、きわめて複雑である。組織のルールや置かれた状況、関わる人々によって、同じ行為でも「エラー」と見なされたり、そうでな

かったりする。同じ行動をしたとしても、大きな事故や損失につながった場合のみエラーとみなされることもある。実験室的な思考に慣れていた当時の私は、現実の場面に即して考えるという視点が、決定的に不足していたのである。

他にも、入所後、繰り返し「ヒューマンエラー」に関する象徴的な言い回しを耳にするようになった。「ヒューマンエラーは原因ではなく、結果である」というものである。研修のスライドに盛り込まれていた、外部との打ち合わせの場で耳にしたりと、労研の内外を問わず、折に触れて聞く機会があった。この表現が意味するのは、「ヒューマンエラー」という分かりやすい言葉で片づけるのではなく、なぜその行為が生じたのか、その背景や条件にまで遡って考えよ、という姿勢である。考えてみれば当然のことではあるが、この言い回しが繰り返し用いられるということは、聞く人にとって強い意味を持つのだろう。

では、この言い回しはいつ頃から言われるようになったのだろうか。労研の関係者に話を聞くと、しばしば名前が挙がるのが、労研の狩野広之氏である。彼の「不注意物語」を読んだ時、次のような一節に出会った。

……人間が意識して不注意になるということは、原理的にできないことである。したがって不注意は原因ではなくて、むしろ結果であり、そういう不注意



にしむら はるき
大原記念労働科学研究所
システム安全研究グループ 研究員

意の発生する条件の方の研究や排除ということを考えないで「注意によって災害を防止する」という考え方は、いかにも非科学的な精神主義的な安全管理だといわざるを得ない。

この視点は、後に安全研究の分野で広く知られることになるジェームズ・リーズンの著書『組織事故』にも通じている。同書には、「不安全行為は事故の原因ではなく、さまざまな要因によって生じた結果として捉えるべき」という趣旨の記述が見られる。さらにリーズン自身、この発想がデイビッド・ウッズの著書『Behind Human Error: Cognitive Systems, Computers and Hindsight. State-of-the-Art Report』（1994年）によって示されていることを記している。興味深いのは、狩野氏が同様の視点を、1950年代というはるか以前に提示していた点である。私は何もしてないのに、なぜかニヤリとしてしまう。



労働の科学

7
July
2025
Vol. 60, No. 7

巻頭言

俯瞰 (ふかん)

労研で学んだ「ヒューマンエラー」の視点

1

西村 春輝 [大原記念労働科学研究所 システム安全研究グループ 研究員]

表紙作品：レオナルドの多面体（Ⅱ）／本城義雄

制作年：1989年

サイズ：1303×1620mm

材質：油彩・キャンパス

出品：第44回全道展

表紙デザイン：大西文字



「承認」をキーワードに 今という時代を語る

特別インタビュー

..... [経済学者] 暉峻 淑子 5

Series

「#教師のバトン」で伝わる (44)

教職員の過酷な勤務環境 藤川 伸治 10

軽労働化で農業の再生 (10)

農業における調製・出荷作業場 (選果場) の軽減対策について

各論第9回 宇土 博 13